

令和元年度 第1回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日 時 令和元年8月5日(月) 13:30~16:00
 2 場 所 菜の花ホール 1階 第1・第2集会室
 3 出席者

委員構成	氏 名	役 職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	鈴木 ひとみ	市議会議員
	室 厚 美	市議会議員
	龍崎 滋	市議会議員
産業関係者	石渡 和男	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦
	高橋 實	安房農業協同組合 推薦
	館石 正文	一般社団法人 館山市観光協会 推薦
	平野 直	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 真司	一般社団法人 館山青年会議所 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
行政関係者	池田 一浩	千葉県安房地域振興事務所 推薦
教育関係者	森 真	国立館山海上技術学校 推薦
	守安 委久予	館山市教育委員会 推薦
金融関係者	景山 富代	館山市金融団(二十日会) 推薦
労働関係者	大谷部 博明	館山公共職業安定所 推薦
	羽山 敏雄	千葉県社会保険労務士会木更津支部 推薦
報道関係者	片方 義明	館山記者クラブ 推薦
知識経験者	秋山 一夫	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	石渡 秀嗣	館山市子ども・子育て会議 推薦
	廣中 元衛	館山市スポーツ協会 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 竹内信一委員

4 議題

- (1) 第4次館山市総合計画及び『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について
- (2) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』策定に係る諮問について
- (3) 今後の策定スケジュール等について
 - ①『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』(人口ビジョンを含む)
 - ②第4次館山市総合計画『後期基本計画』
- (4)『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について
 - ①進捗状況報告(数値目標・KPI)【説明】
- (5) 第4次館山市総合計画『前期基本計画』について
 - ①進捗状況報告(成果指標)【説明】
- (6) 地方創生推進交付金事業について
 - ①H30推進交付金(効果検証)【協議】
 - ②R1推進交付金(取組概要)【説明】
- (7) その他

5 会議の経過

1. 開会
2. 市長挨拶

金丸市長：ご多用の中、本審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、本審議会の委員就任について、ご快諾いただきまして、誠にありがとうございます。

加えて、日頃から市政発展のためのご尽力を賜っていることに対しましても、厚くお礼を申し上げます。

本年は、30年余り続いた「平成」が終わり、「令和」という新たな時代が始まった、象徴的な年ではありますが、館山市では、市制施行80周年、館山駅開業100周年、洲崎灯台点灯100周年を迎える、記念すべき年であります。

また、本年は『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』が最終年を迎え、さらに、来年は「第4次館山市総合計画」の『前期基本計画』が最終年を迎えます。そのため、今年度中に、「第2期総合戦略」の策定、今年度と来年度の2ヵ年で『後期基本計画』の策定を予定しています。

地方創生は、人口減少に歯止めをかけて、地域の活力を取り戻していくための息の長い政策であり、今後も、実効性のある施策を着実に実施していく必要があります。

策定に際しまして、今年度と来年度は本審議会を年4回ずつ開催する予定であります。委員の皆様にはご負担をおかけしますが、皆様のご意見を賜りながら、SDGs(エスディージーズ)や関係人口などの新たな時代の潮流を盛り込んだ「令

和時代の地方創生」を進めていけるよう、「第2期総合戦略」及び『後期基本計画』を策定して参りたいと考えておりますので、ご協力よろしく申し上げます。

本審議会の開催に際し、事前送付資料についてのご意見を頂戴しまして、誠にありがとうございます。

本年4月に「館山市市民協働条例」を施行したところでもありますが、日頃から様々な分野でご活躍されている皆様とともに、活発なご審議をいただきながら策定作業を進めて参りたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

結びに、各界各層の代表であります委員の皆様方には、市政へのより一層のご協力をお願い申し上げます、挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

3. 新規委員への委嘱状交付

4. 議事

(1) 第4次館山市総合計画及び『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について

※事務局より、「第4次館山市総合計画」と「館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の関係について説明。

(2) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』策定に係る諮問について

※金丸市長より石渡会長宛てに、「第4次館山市総合計画における後期基本計画の策定について」の諮問を行う。

(3) 今後の策定スケジュール等について

①『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』（人口ビジョンを含む）

②第4次館山市総合計画『後期基本計画』

※事務局より説明。

(4) 『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について

①進捗状況報告（数値目標・KPI）【説明】

※事務局からの説明後、資料4-5の事前質問について、経済観光部長より回答。

経済観光部長：経済観光部長の石井でございます。私からは、「起業、特産加工品、農産物の規格外品の活用が進まない理由は何か。農産物に関して、レシピはたくさんできているはずである。」というご質問について回答させていただきます。起業、特産加工品、農産物の規格外品の活用的前提となりますのは、地元の農水産物が、地元の事業者にしかりと届けられる仕組みが必要となっていると考えております。私どもの方で策定しております「たてやま食のまちづくり計画」の中では、域内流通システムということで位置づけているところがございます。この域内流通システムにつきましても、生産者からどのくらいの、どんな農産物、あるいは水産物が提供可能なのかという情報、あるいは事業者さん、あるいは飲食店、宿泊の事業者さんがどのくらいの量を必要と

しているのかという需要量の情報、そしてその二者を結びつける収集運搬機能、これらが必要になってくる、いわゆる、こうしたことを繋ぐ中間的な機能が必要と考えておりますが、こうした流通システムがないために、なかなかこういった活用につながっていない状況でございます。これにつきましては、実は「食のまちづくり計画」の中でも計画をされておりますけれども、拠点施設を整備した中で、それらを一緒に立ち上げていくという形で考えているところでございます。この拠点施設につきましても、財政状況等々様々な理由がある中で、今は少し中断はしておりますけれども、今後ハード整備も含めて、あるいはいったいどういう進め方が良いのかということも含めて様々な方策を検討しておりますので、こちらと併せて、流通システムについても考えていきたいと思っております。それから、レシピの問題ですが、おっしゃる通り、これまでもレシピは沢山作ってもらったところですが、この地産地消レシピにつきましては、どちらかというと、一般の市民でありますとか消費者に対して地元の農水産物を知ってもらおうと、あるいは食べてもらおうというような情報源として提供しているものでございまして、なかなか事業者向けにはならないところがあるのかなと考えております。そうした形で、今後も引き続き、この域内流通システムの構築と併せて検討していきたいと考えております。

石渡会長：事務局からの説明が終わりました。ご意見がありましたら挙手願います。

室委員：最後のご説明の中で、域内流通システムのお話がございました。こちらは、南房総市で行われている「地域商社」がまさにそれに当たるのではないかと考えているのですが、南房総市の地域商社に関する研究とか一緒に出来ないかとか、同じようなものは館山市ではどうなのかとかそういった観点でお話をお聞きできれば、お願いします。

経済観光部長：南房総市で「地域商社」というものが出来上がっていることは重々承知しているところでございます。うちの方としてもそれを踏まえながら、一緒にというよりも、今はいろんな形で可能性が少し出てきておまして、どういったところがどうなのだとはまだはっきり申し上げられないですが、市の中で拠点整備と併せてその辺が出てくるような気配がありますので、出来るところは注視しながら支援していくというような進め方をしているところがございます。

室委員：だいぶ前からこの話があるので、具体的に加速していただければと思っております。もう一つ、企業誘致の件で、良い方向に向かっている案件があるということでしたが、具体的にお話いただける範囲で教えていただけますでしょうか。全部0件となっておりますので。

経済観光部長：まず、0件となっているのはその通りなのですが、企業へのセールスといえますか、訪問はかなり行っております。良い方向に向かっているというのは、海に関係した企業様の方で、館山に来られるかなといった話がございますので、まだお名前は言えませんが、進めているという状況です。それとですね、企業訪問させていただいている中で、企業誘致ということで、IT関連企業にターゲットを絞ってプロモーションをしているのですが、そうした中で誘致にはなかなか結びついていないのですが、あるIT企業のグループ、団体がございまして、こちらにアプローチした中で、まずは館山市を知った方がいいのではないかという話で、そのグループの方達がボランティアという形で「ロボラボ教室」という子供たち向けの教室を開いてくれています。これは、実は今年で3年目に入っているのですが、当初行った時は、非常に人気の教室なので1地区1回行ったら次は多分無理でしょうと言われていたのですが、3年間来ていただいているということで、非常にIT企業の方達からも館山をいい形で見ていただいているのかなと感じております。それともう一つがですね、今年のゴールデンウィーク明けに一般社団法人Living Anywhereがテレワークの実証実験合宿を行っているということで、そちらを誘致しまして、館山で10日間、約150名が参加して実証実験を行いました。テレワークにつきましては、先般、東京オリンピックの渋滞の解消の関係で、国全体で実証実験を始めたくらいで、これから非常に大きな価値を持ってくるのかなと思っておりますので、これをきっかけに二拠点で仕事をする企業を誘致できればいいのかなというふうに思っております。

龍崎委員：只今の室委員の意見と重なる部分があるのですが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の膨大な資料を見てもですね、例えば館山市の観光であるとか景観形成であるとか、館山市の特徴を示すということが重要な部分がかかり含まれております。ただ、どうしても市民の皆様、あるいは事業者の方が豊かさであるとか、市としての発展を実感するには、今ひとつの例で言えば、起業あるいは特産加工品、あるいは観光に関する部分の方々に、直接働きかけるような戦略が具体化されていかなければならないと思うのです。ですから、今回の規格外品の活用であるとか、特産加工品の開発、この辺が1つでも2つでも、年度ごとに具体化するような方向に進めていってほしいということ。また、拠点ということで考えますと、様々な機能を有するというので、今後の取組の中では、目標を掲げますけれども過年度ごとにしっかりと実績が示されることをお願いしたいと思います。意見として申し上げます。以上です。

(5) 第4次館山市総合計画『前期基本計画』について

①進捗状況報告（成果指標）【説明】

※事務局からの説明後、資料5-5の事前質問について、担当部長より説明。

建設環境部長：まず、指標連番80「施設の長寿命化に取り組む都市公園」ということで、公園の需要はあると思う、計画はあるのかということでございますけれども、新しい都市公園の整備計画は今のところございません。

続きまして、指標連番82「道路排水整備延長」、83「道路舗装施工延長」の進まない理由についてでございますけれども、こちらにつきましては限られた予算の中で進めております。ここ数年、工事に関する人件費、また資材の高騰によりまして工事費が高くなっていること、またトンネルや橋梁等の長寿命化、いわゆる維持管理の方に工事費が取られている関係、またこういった排水や道路を整備するにあたりましては、境界であるとか用地買収の関係等が関係しているところでございます。

続きまして、指標連番89「合併処理浄化槽への転換補助基数」でございますけれども、合併浄化槽への転換対象はどれだけあるのかということでございますが、毎年度農林水産省、国土交通省、環境省による汚水処理人口の普及状況に係る総括表の作成が千葉県経由で毎年調査が行われております。平成31年4月1日の住民基本台帳の人口で46,437人、世帯数22,925世帯から平均の世帯数2.03人として計算をしていきますと、単独浄化槽、汲み取り浄化槽の人口から下水道供用エリア内の単独・汲み取り人口を除きますと、約12,684世帯のいわゆる合併浄化槽の潜在的な数と想定しているところでございます。また補助件数の減につきましては、今まで平成24年～27年度まで、86基、年平均21.5基、補助の基数があったのですけれども、リフォーム補助金がありましたのでこの期間につきましては、水周りの改修につきまして合併浄化槽の改修も行ったということが考えられるところでございます。以上でございます。

石渡会長：事務局からの説明が終わりました。ご意見がありましたら挙手をお願いします。

石井敏宏委員：今説明があつて資料を見たのですけれども、実感どおりお金がない、人がいない、というのが進捗シートから、直にそうやって書いてあるものもあれば、そういうのが読み取れるのがかなりあるのですね。そうするとですね、もう事業自体を減らしていく必要もあるのではないかと思うのですね。1個だけ例を挙げちゃうのですけど、例えば資料5-3の、青柳大賀線。これはですね、船形バイパスやっているから今は進んでいないという形になっているのですけど、これだけお金のない状態、人手がない状態で、これは作れる感じがしないと思うのですけど、これ、廃止とか凍結とか、そういう見直しをする

とか、こういう大きいものに対する見直しが必要じゃないかと思うのですが、
どうなのでしょう。

建設環境部長：確かに予算等少なくなっている、また少子高齢化ということでこれから使う
人も少なくなっていくことが予想される中ではございますが、現時点では今
のところ見直す予定はございません。以上です。

石井敏宏委員：私は行財政改革委員もやっているのですが、なぜかそこには政治的な案件
は扱わないってなっていて、多分こういう大型の都市計画道路ってどこもそ
ういった行財政改革に取り組まないで、でもこれ実際に出来ると思っている
人いるのかなと私逆に思うくらいで、多分20億とかそういう金額がかかると
思うのですよね。ちょっとあまり議論していても多分平行線になると思うの
で終わります。意見として。

石渡会長：ありがとうございます。このことについて、質問について回答も書いてあり
ます、これで十分という訳にはいかないかもしれませんが、こういう
ことで一つ御了承願いたいと思います。

< 14:35～14:45 休憩 >

(6) 地方創生推進交付金事業について

①H30推進交付金（効果検証）【協議】

※事務局より、地方創生推進交付金の概要、KPIの実績値・達成率、事務局案（分析結果、
今後の取組方針）に対する委員からの事前聴取意見及び提案について説明。その後、事前
質問について、各担当部長より回答。

●事業No.1「景観計画策定事業」への事前質問に対する回答

建設環境部長：効果検証シートの「今後の方針」の欄の理由・説明の部分に記載してありま
すが、6月の議会で景観条例の議決をいただきました。条例の施行日は、本
年11月を予定しているところです。また、皆様のお手もとにもお配りしてお
ります『館山市景観計画概要版』や本編を作成しました。さらに、市広報で
の広報、10月頃には景観セミナーを開催し、景観形成意識を高めることを狙
っていきたいと思います。

また、11月からは重点整備地区になっている西口地区の届け出事務等を行っ
ていきます。さらに、景観計画（概要版）の15ページも書いてありますが、
重点地区の候補地区というものがありますが、重点地区への指定へ向けての
検討を行います。以上です。

●事業No.2「景観形成整備」への事前質問に対する回答

経済観光部長：まず 1 点目の海辺の広場が古く臭いが気になるということで、改修の計画はあるかとのことなのですが、海辺の広場は平成 24 年 3 月の渚の駅たてやまのオープンとともに開館をしまして、年数的にはそれほど経っていないのですが、開館以来大規模な改修は行っていないというのが現状です。従いまして、現段階では改修に関しての具体的な計画はありませんが、どうしても水や生き物を扱う環境のため、施設が傷んできているのは確かです。ただ、改修整備を行うには多額な経費が想定されますが、いかに経費をかけずに魅力ある施設として維持管理していくかというのは確かに大きな問題として意識をしています。

それともう 1 つ、渚の駅たてやまの来館者の満足度をどのように測ったのかとのことですが、特に 1 年を通じてアンケート等の実施はしておりませんが、受付に様々な意見が寄せられておりまして、来館者の方からは、特に VR やさかなクングャラリーにつきまして、「きれいな映像を見てとても満足した」とか、「こんなところでさかなクンに会えると思わなかった」、これはたまたまさかなクンが来ていたのかもしれないと思いますが、そういった意見や、「すごくインスタ映えする」といった多数の意見が寄せられていることを受付の職員から随時報告を受けているところです。以上です。

●事業No.4「海辺の環境改善」への事前質問に対する回答

経済観光部長：まず、観光資源である海での収益化ということなのですが、海水浴場はもちろんなのですが、それ以外にも自衛隊と沖ノ島を会場とした「館山わかしおトライアスロン」通称「タテトラ」と呼ばれているものですが、これら館山の海を活用して人を呼び込む催しを多数開催しているところです。特に北条海岸 BEACH マーケットは徐々に規模も大きくなっており、6 月には「北条 BEACH ヨガ 100」といった北条海岸で 100 人が同時にヨガを楽しむ新たなイベントも開催されたほか、11 月 3 日にも予定されておりまして、その時には北条海岸での SUP レースが開催されると伺っております。このように、行政だけではなく、民間でも海を活用した取組が行われておりまして、観光客や交流人口、あるいは関係人口の増加にもつながっていると考えています。市としても、これらの取組を支援して、海の魅力を活かした地域振興を図っていきたいと考えております。

また、沖ノ島ということでもよろしいかと思いますが、費用対効果とそれについて国・県ともっと交渉できないか、協力金でまかなえているのかというご質問ですが、昨年度沖ノ島の海水浴場等に係る経費が約 1,500 万円でした。かたや、沖ノ島の環境保全協力金の額は約 190 万円でしたので、経費を協力金ではまかなえていないという状況です。一方で、昨年の沖ノ島の海水浴場の入込客が 38,580 人と過去最高だったのですが、これに平成 29 年度の千葉県で出している観光消費額単価を用いて試算しますと、沖ノ島海水浴場に係る観光消費額は 4 億 7,600 万円くらいではないかと推計してまいりまして、

そういう意味では費用対効果は出ているのかなというふうに感じております。また、駐車場の料金等の徴収につきましては、土地の所有者である国との協議において、国からお金を徴収してよいという話がまだ来ていません。話がまとまっていませんので、平成 29 年度より開始しました「沖ノ島環境保全協力金」はあくまで任意での協力ということであることから、経費をまかなえるほどの額は徴収できておりませんが、初年度の協力金が約 30 万円であったのに対して、昨年度は約 190 万円、今年度も直近の 8 月 3 日の数字で 260 万円を超えているという情報をいただいておりますので、さらに制度の認知度を高めて、協力金の方も協力いただいきたいというように考えております。以上です。

●事業No.5「城山公園機能強化事業」への事前質問に対する回答

建設環境部長：来客数の増加を数字で示せるのかということで回答させていただきます。城山公園の来園者につきましては、公園職員が目視によりまして毎日の来園数を把握しております。それに基づきまして、大型バスは 35 人、乗用車は 2.5 人という計算をしています。年々減少なのですけれども、平成 28 年度が 220,869 人、平成 29 年度が 176,231 人、平成 30 年度は 163,992 人となっています。また、増加の数ということで、シャトルカーの話を少しさせていただきますと、平成 29 年度の途中から始めたのですが、平成 29 年度の利用者数が 4,865 人、こちらは 48 日間です。割り返しますと、1 日当たり 101 人です。平成 30 年度の利用者数が 27,710 人、運行した日数が 119 日間で 1 日当たり 232 人となっております。以上です。

●事業No.6「航路利用促進事業」への事前質問に対する回答

経済観光部長：往復切符が 4 日間有効だが、日帰りと宿泊の割合はどうかということなのですが、4 日間有効ではあるのですが、残念ながらほぼ 100%が日帰りの状況となっております。

それともう一つ、今後の増便・期間の延長等の計画はあるかということなのですが、これは私どももまさに願っているところであるわけで、市長もことあるごとに東海汽船にトップセールスで伺いまして、社長にも直談判していますけれども、どうしても船の都合等もあり、なかなか実現していないというのが現実であります。ただ、これにつきましては、今の館山航路の実績を上げることにより、館山に寄ることで東海汽船も儲かるんだということを示していきたいという風に考えていきたいです。

それと、モニターツアーの効果検証についてですが、平成 30 年度はゴルフモニターツアーに 14 名、移住体感ランニングツアーに 11 名、記者クラブツアーに 8 名と 3 つのモニターツアーを実施しました。いずれもアンケートをとっていますが、どのアンケートからもまた利用してみたいという回答が圧倒的に多く、肯定的な意見が多かったという状況です。以上です。

建設環境部長：今後の継続はどの部分か、また、赤山地下壕のトイレ整備に問題はないのかということにお答えいたします。赤山地下壕につきましては、建設環境部の方で毎月、都市計画課職員が点検を行いながら、5年ごとに業者の点検をしております。今後も、現在と同じように供用していきたいと思っております。また、赤山地下壕のトイレ整備につきましては、現在豊津ホール、また、50メートルプールのトイレを使用してもらっている状況です。以上です。

教育部長：相当程度有効にとどまっている理由と課題は何か、非常に有効となるためには何が不足しているのかという2点についてお答えいたします。今回の事業では、赤山地下壕へ入壕する動線上に隣接しております老朽化したプールのフェンスについて、景観的な面や倒壊などにより入壕者に危険になるものなので、その改修が必要であるとして行ったものです。観光施設の周辺整備にはつながりましたが、直接の入壕者の増加につながったかどうかは不明な部分がございます。景観を整備するということで、行った事業ということですが、次に、非常に有効となるためには何が不足しているのか、ということなのですが、指標としては、入壕者の増加に直接つながる事業の実施だと考えておりますけれども、マスメディア等への積極的なPRや広報活動、観光施設としての魅力を向上させ、入壕者を増加させるためには、地下壕の見学だけではなく、たとえば市内の戦争遺跡の資料を展示するかそれを説明する施設、休憩所の整備など、付帯的な設備も必要になってくると考えられますので、入壕者数等を今後見ながら検討してまいりたいと考えています。以上です。

●事業No.9「海を活かした雇用創出事業」への事前質問に対する回答

経済観光部長：まず1点目の財源の問題ですが、こちらはご指摘のとおり平成30年度の執行額199万4,000円は企業・起業支援の費用です。企業誘致トップセールスにつきましては、交付金を充てていますが、実際の支出については何件か相手側からの進出の打診がありまして、館山で協議を行ったため、旅費の支出がなかったという状況です。

2点目の委託事業がどのようにフィードバックされたのかということですが、平成29年度の委託事業では、企業誘致のターゲットとすべき企業が従業員30人～100人程度のソフト産業のベンチャー企業、いわゆるITベンチャーという結果が出ています。こうしたことから、移住交流推進機構の会員企業とのマッチング交流会や熱意ある地方創生ベンチャー連合の企業による課題解決アイデア提案あるいは意見交換会への参加、あるいは自宅以外での就業形態といったことについては、一般社団法人Living Anywhereによりますテレワークの実証実験や各種様々な企業との意見交換を行っております。さらに、企業ニーズ調査のまとめとして、サテライトオフィスやシェアオフィス等のワークスペースについては、館山市の中心でお店が集積している駅東口の周

辺、銀座商店街が候補に挙がっておりますので、当地域としては、今年度からエリアリノベーション事業として、空き家等を有効活用できるよう、事業展開を進めておりますので、こうしたことにもつながってくるのかなと考えております。また、進出に興味を示す企業に対しましては、求められる地域の情報や地元調整を図るなど、画一的な誘致活動ではなく、対象企業にコミットした誘致活動を行ってまいります。

それと、トップセールスはどのような方針でということですが、ターゲットとすべき企業が30名～100名程度のITベンチャーとされておりますので、これに基づきトップセールスの件数は平成29年度では27件、平成30年度では37件と、主にIT企業をターゲットに訪問して、IT合宿や企業研修など、まずは館山に来てもらえるよう、アプローチをしています。ただ、残念ながら企業誘致にはまだ至っていない状況です。繰り返しになりますが、特にテレワークにつきましましては、やはり東京から80分に位置する館山で仕事とバケーションを合わせた「ワーケーション2.0」を考える機会ができましたので、延べ150の方が市内で実証実験に参加されたというのは非常に価値があったのかなというふうに感じています。このような活動を通じまして、まずは館山の良さを知っていただいて、その先の企業誘致につなげていければというふうに考えています。以上です。

石渡会長：ありがとうございます。事業が全部で10項目ありましたが、ほとんどの事業について、皆様からコメントをいただいております。そのことについて、今事務局から説明がありましたが、なおかつご意見はありますか。

事務局：事業ごとにお願ひします。

石渡会長：1つずつやる？

事務局：それでは、一括してお願ひします。

石渡会長：はい、それでは10事業ある中で一括してご質問をお受けしますので、何かありましたら、挙手のうえ、お願ひします。私も、右端の意見を見て賛成・反対がありますけど、大まか賛成が多いようですね。また、反対についてはいくつかありますけれども、これについては担当部署でよく精査し、できること、やれることから進めてもらうということで、お願ひします。

龍崎委員：10項目ご説明いただきましたが、観光入込客数が増えているというのは大変結構だと思います。4番の説明の中では、観光消費額を算定して4億～5億を見込めるというような話もありました。つまり、費用対効果として不明であっても、観光消費額で算出すれば、効果があるものと思われるというご説明

だと思えます。いずれにしても、いろいろな自治体の中で入込客数の増加を目指す中で、どの様な受け入れ態勢が備わっているかということによって、一律に平均値を乗じて消費額を算出するというのではなく、大きな差が表れると思うのですよね。ですから、具体的にどの部分とは申しませんが、やはり観光立市として館山が取り組む際には、様々な部分で経済効果に表れるような施策をしっかりと展開していただきたいということを1点要望いたします。

そして、渚の駅を交流拠点ということで考えますと、もっと経済効果を発揮できるような拠点、また海辺のまち・海辺のエリアとして考えるならば、館山全体が海辺エリアという中で、海岸だけではなく、全体的な館山の魅力発信につなげていくことが相乗効果につながると思いますので、特に経済効果を生むような施策あるいは拠点施設というものをお願いしたいと思えます。以上です。

石渡会長：ありがとうございます。回答はいる？

龍崎委員：回答は難しいと思うので、意見ということで。

石渡会長：ということですので、よく検討していただきたいと思えます。10事業一括して説明していただきまして、本来であれば1項目ずつ賛成・反対とやるのもよいのですが、説明が全部終わりましたので、一括して伺っているところです。ご意見がありましたら、お願いします。

鈴木ひとみ委員：2番の景観形成事業の中の意見の中で、国道127号沿いの草刈り不足という意見がありました。国道410号沿いも草刈りをしている途中なのですが、まだ草が残っています。もう一つ、海岸線の駐車場の件でお金が取れないのは県がうんと言ってくれないから、沖ノ島についても協力金という形で今いただいているのですが、沖ノ島の駐車場を整備してそこでお金をいただくということも今できない。実際にはそこで管理をするためのお金、人件費とかゴミの収集とかは館山市が負担している状態です。海辺のまちづくりで県も一緒になってちゃんと考えてくれないかという交渉をこの後していくことはできないのでしょうか。

建設環境部長：まず127号の草刈り、また410号の草刈りについてですが、私たちも機会があるごとに県・国に要望しているところですが、やはり予算の関係等で、本来であれば夏休み前に行われていけばいいなと思えますが、なかなかその辺が難しいのですけれども、国の方もいろいろ手法を考えているそうなので、またこれからも要望していきたいと思えます。

経済観光部長：私の方から沖ノ島と北条海岸の駐車場有料化についてですが、それぞれ状況が違ってまして、沖ノ島の方は先ほど申しました通り、あそこは防衛省の土地ということで国が管理しているのですが、そこを無償で借り受けて市道認定をさせてもらっているのですが、無償で借りている中でお金をとることは難しいというお話をいただいております。一方で北条海岸なのですが、こちらの管理者は千葉県です。港湾区域になっていますけれども、こちらは県としては全くダメという話ではないのです。ただ、ある一定のエリア、たとえば北条海岸で言うと中央突堤から新井海岸までのエリアの管理の権限を県から市に移譲し、市が管理をすれば取れなくもないという話なのです。ただ、県から移譲された権限に基づいてやらなければいけない管理の費用等を計算すると非常に大きなものになってしまいます。それで、夏の間だけでもお金をとるとするのは、コストが合わないということがありまして、今中断をしています。実はこの間、千葉県とも話し合いをする機会があったのですが、北条海岸の有料化の問題は、夏季の混雑により駐車場が無秩序になってしまうということで、夏の間だけなのですね。極端に言ってしまうと、夏の間の日祝日、あるいはお盆の時期に限った話なので、私の方から1年間で限られた日なのでそこだけ何とかできませんかという話はしていますけれども、まだお答えはいただけていないという状況です。以上です。

石渡会長：この項目は大事なところですので、皆さんの忌憚のない意見をお願いします。

溝口委員：先ほども企業誘致の話が出ていたので、付け加えさせていただきます。企業を増やして、雇用を増やして、これから減っていく人口を増やしていかなければいけないというのは、一番大きな課題だと思うのですが、今日の付け焼刃でインターネットで調べてみましたところ、たとえばサテライトオフィスであるとかリモートオフィスというものが、今急に注目を浴びていて、いろんな企業がそれを始めていると。それで南房総市をみると、素敵なホームページができていまして、さっそく取り掛かっている様子があります。それで、白浜の旧長尾小の活用ですとか、ヤマナハウスという、私個人的には足を運んだことはないのですが、ネットを見ただけでもとても魅力的なオフィスのようにされていて、積極的に宣伝をされているようですので、ぜひその辺りも誘致する企業ということで、主にIT企業をまわっているということですが、そういうところの可能性が高いのかなと思いますので、インターネットが発達してどこでも仕事ができるということですから、それにプラス館山の魅力を宣伝していただいて、ぜひ館山を知ることでも今後も誘致していただけたらと思います。

石渡会長：ありがとうございます。回答はいいですね。今のご意見はよく吟味して、よろしく願いいたします。

田中委員：企業誘致についてなんですけれども、IT企業の30人～100人が適しているという理由を知りたくて、それって館山のどの部分がマッチしているのかがすごく気になりました。つまり、館山の価値が30人～100人規模のIT企業がマッチしているという評価だと思うのですが、それは何を意味しているのかなと思っていて、そこに何かヒントがあればなと思っています。

※平成29年度に実施した『館山市企業誘致支援業務』の報告書では、ターゲットとすべき企業は、「従業員30～100名程度のソフト産業のベンチャー企業」とされている。

経済観光部長：30人～100人の根拠の資料については、今手もとにないので、別の形でお答えしたいと思います。

【質問に対する回答】

「従業員30～100名程度のソフト産業のベンチャー企業」の規模の根拠は『館山市企業誘致支援業務』の報告書73シートに記載されている。

《ターゲットとすべき企業》

- ①知名度やブランド力がなく、東京など競合が多く・強い大都市圏では採用競争に勝てない。
 - ②進出先での大量採用は必要とせず、現地で年間3名～最大10名程度の採用を想定している。
 - ③勤勉さ・正確さのある高度事務職を採用したい。
 - ④離職率（人材流動性）の高さに悩んでいる。
 - ⑤地方拠点は運用・制作・開発の拠点。
- 上記の点から「従業員30～100名程度のソフト産業のベンチャー企業」とされている。

石渡会長：いかがですか。皆さんたくさんコメントを書いてくださったので、これだけ関心があるということですね。

それでは、ご意見がないということですので、賛成ということでもよろしいですか。全員賛成ということでもよろしく願います。それでは、委員からいただいた意見を踏まえて、設定した3つのKPIの達成を目標に、実施していただきたいと思います。これで、6の①は終わりました。次は6の②ですね。

石井敏宏委員：すみません。これって効果検証で、AとかBとかあるじゃないですか。それで、今後の方針を了承するという形で全員の決を採るのではないのですか。一括でもよいとは思いますが。

事務局：事務局からお示した事業の評価と今後の方針について、一括してこの通りに進めてよろしいかということで、皆様に審議していただければと思います。

石渡会長：それでは、事務局案の方針に基づき、委員から頂いた意見を踏まえて、実施してもらおうということでよろしいでしょうか。

各委員：異議なし。

石渡会長：それでは、委員からいただいた意見を踏まえて、設定した3つのKPIの達成を目標に、実施していただきたいと思います。議題の6の①は終わりましたので、6の②からです。

②R1 推進交付金（取組概要）【説明】

※事務局より、概要について説明

石渡会長：事務局の説明について、ご意見・ご質問等がありますでしょうか。

石井敏宏委員：これは、令和2年度ですが、5カ年計画で既に28年度に決まったことなので、良いと思うのですが、好循環とあり、「交流人口の増加」⇒「まちの賑わい創出」、この辺りまでは努力するとできるし、実際観光入込客数はめでたいことに200万人まで増やしていただいたということなのですが、「まちの賑わい創出」⇒「しごとの創出」、ここの間には相当の断絶があると思うのですよね。資料だと単に矢印1個だけですが、実際多くの地方都市等で起きていることは、まちの賑わい創出はできているけど、しごとの創出につながらなかったというパターンがありふれている。ここが課題だと思いますので、今後たとえば移住者数は、住民票をこっちに移してもらわないと頭数が増えず地域経済やまちの発展は難しい。あともう一つはお金ですね。たとえば、宿泊者数の増加、これはお金が落ちているということにリンクしていると思います。それと、館山市だと大体、統計から小売りの売上高が1,000億円くらいだったと、少し過去のデータになりますが、そういった金がちゃんと落ちているのか、人が移っているのか、そういったところに力点を置くというか、お金と人に直結するような事業を今後進めていきたいと思います。他の意見の中で、賑わうだけじゃダメじゃないかと、自分以外の方からもそういった意見があったので、その辺りに気をつけて次期も取り組んでいただきたいと思います。意見としてです。

石渡会長：ただいまのご意見については、フォローをよろしく願います。他にご意見はございますか。

各委員：特にありません。

石渡会長：意見がないようなので、以上で質疑を終了したいと思います。皆様、ご協力ありがとうございました。

(7) その他

※特になし

以上